

平成22年度事務事業実績及び前期4年間取組評価表

事務事業名	上村デイサービスセンター事業	会計	上村ダイ	事業No.	236	施策順No.	35-044
		事業種別	政策・その他	予算科目	1-1-1-1-1		
政策	3 健やかに安心して暮らせるまちづくり	課等名			介護高齢課		
施策	35 高齢者福祉の推進	事業期間	開始	17	終了		

1 事業の目的

事業の目的は「対象」を「意図」した状態にすることです	対象	遠山地区(主として上村地区)の要介護・要支援認定者で通所介護サービスを必要とする者。						A十分達成した Bどちらかといえば達成した Cどちらかといえばできていない Dほとんど達成できていない		
	誰、何に	具体的な数値で表すと(対象指標)		19年度	20年度	21年度	22年度		23年度	
	意図	利用者に通所介護サービスを提供し在宅生活の支援、介護者の介護負担軽減を図るとともに、要介護状態の改善、維持、又は悪化を防ぎ、介護予防を目指す。								
対象をどう変えるか	対象をどう変えるか	事業の成果を具体的な数値で表すと(成果指標)		19年度実績	20年度実績	21年度実績	22年度目標	22年度実績	23年度目標	目標達成度
		ケアプランに基づき通所介護を利用する者		36	29	28	25	29	30	A
22年度の目標達成度に対する振り返り【政策的事業のみ評価】	上村デイサービスセンターが介護サービスを提供することで、地域の高齢者が在宅生活を継続し安心して過ごすことができる。									

2 手段(具体的な取り組み内容)

事業の制度(仕組み)説明	上村デイサービスセンターは平成17年10月に旧上村から飯田市直営の指定通所介護事業所となる。通所する要介護・要支援認定者の状態に応じて食事、入浴、排泄等の介護、機能訓練やレクリエーションの提供や相談援助を行い、介護者の負担軽減や利用者の生活機能の維持、向上を図り、在宅生活の支援を行う。利用定員10名に対しての職員体制は所長を介護高齢課長が兼務し、正規職1名、4～6時間勤務の臨時職4名が配属。		
	事業内容	名称	活動量・単位
22年度事業内容	介護保険制度の指定事業所基準に基づき、生活相談員1名、看護師1名、介護員2名と調理員1名を配属 ①通所介護及び予防通所介護事業を実施 ②特定高齢者の介護予防教室の開催(高齢者の生活体力づくり)	①通所介護サービス 1 利用者数 2 述べ利用件数 ②介護予防教室 1 利用者数 2 開催数	1 25名 2 1,200件 1 10名 2 12回
23年度実施計画	介護保険制度の指定事業所基準に基づき、生活相談員1名、看護師1名、介護員2名と調理員1名を配属 ①通所介護及び予防通所介護事業を実施 ②二次予防高齢者の介護予防教室の開催(高齢者の生活体力づくり)	①通所介護サービス 1 利用者数 2 述べ利用件数 ②介護予防教室 1 利用者数 2 開催数	1 30名 2 1,300件 1 10名 2 12回

3 事業コスト

事業費	特定財源	(千円)	22年度予算額	22年度決算額	23年度予算額	特定財源内訳、補足事項 サービス収入ほか 一般会計繰入金 繰越金
	国庫支出金					
	県支出金					
	起債					
	その他		13,597	12,476	21,827	
	一般財源		10,203	9,916	10,073	
計(A)		23,800	22,392	31,900		
正規職員所要時間						
臨時職員等所要時間						
人件費計(B)			0			
トータルコスト A+B			22,392			

4 事業に対する市民や議会の意見

--

5 行財政改革の取組内容【経常的事業のみ評価】

行財政改革の取組区分	【記載不要】	具体的な取組事項	【政策的事業のため記載不要】
21年度決算と比べての効果額(千円)	【記載不要】	効果額説明(算出根拠)、特殊要因	【政策的事業のため記載不要】

6 前期4年間の取組評価(総括)

上位の施策への結びつき	上位施策の目的	施策の成果指標又はムツ指標
	安心していきいき暮らせる	安心していきいき暮らせている高齢者の割合
この事務事業は施策の目的達成にどのように貢献しましたか	4年間の振り返り	上村地区においての唯一の介護保険事業者であり地域福祉の中核としての役割は大きい。通所する者に食事・入浴等の支援、機能訓練やレクリエーション等を提供する事で高齢者サービスを確保し、介護予防を実践する事で高齢者の生活体力づくりを図り心身の活動性を高めている。
	後期に向けた課題	地区の急激な人口減少や利用者並びに介護者の高齢化に伴う介護力の低下が施設利用へと拍車が掛かり利用率減の大きな要因となっている。
この事務事業の成果を向上させるためにどのような工夫をされましたか	4年間の振り返り	ケアマネや地域包括支援センター等関係職種との連携を密にした情報交換、南信濃地区を含む地区民協等の地域団体と交流・PRすることで継続的に新規利用者を確保している。また、希望による提供時間の延長や利用日を増やすことで利用率を向上させ、介護者の負担軽減に繋げている。
	後期に向けた課題	ケアマネや地域包括支援センター等関係職種との連携を密にした情報交換で在宅課題の検討や効果的なサービス提供についての検討が必要。
コストを削減するためにどのような工夫をされましたか	4年間の振り返り	最小限の職員配置。定員以上の者を収容出来る規模の施設の管理や恒常的な維持費を出来る限り節約し実践している。また、送迎においては点在地区から通所する者を効率的に配車計画している。
	後期に向けた課題	可能な限りで施設維持費や人件費の削減を實踐しておりこれ以上の削減は困難。介護サービスの低下を防ぎ、効率的なサービス提供を確保するためにも優れた資質を具備する職員の恒常的な雇用が必要。
受益者負担の程度、市が関与する程度は適切でしたか	4年間の振り返り	デイサービス利用者は介護保険法により一定の負担をしているが、合併による特例措置として所得段階に応じ利用料の一部が償還払いされている。(平成22年度末で終了)
	後期に向けた課題	介護保険法による一定の負担。また、合併による特例措置の廃止に伴い飯田市が実施する利用者負担軽減制度に移行。
多様な主体の役割の発揮状況 ①その主体は誰で、どのような役割を果たしましたか。 ②その主体が役割を発揮するために、行政はどのような働きかけをされましたか、又は、配慮してましたか	4年間の振り返り	
	後期に向けた課題	
全体を通じて	4年間の振り返り	年々、人口減少に伴い要支援・要介護者は減少しているが、上村デイサービスが介護サービスを提供することで上村地区の高齢者が在宅生活を継続し、いきいき暮らしている。
	後期に向けた課題	人口減少に伴い要支援・要介護者も減少して来ている。運営の効率化を検討し、現状維持を図る。

7 「対象」「意図」「結果」の関係の確認

事務事業を統合・分割する必要はありますか	ない	対象や意図を修正する必要がありますか	ない	成果指標や指標値を修正する必要がありますか	ない
----------------------	----	--------------------	----	-----------------------	----

8 総合評価・次年度の事業の方向性改善の計画

<input type="checkbox"/> 完了	<input type="checkbox"/> 拡大	<input type="checkbox"/> 縮小	<input type="checkbox"/> 別事業に統合	<input type="checkbox"/> 休止廃止	<input checked="" type="checkbox"/> 現状維持	<input type="checkbox"/> 目的見直し	<input type="checkbox"/> 事業のやり方改善
-----------------------------	-----------------------------	-----------------------------	---------------------------------	-------------------------------	--	--------------------------------	-----------------------------------